社会科

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-09-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大塚 有将, 杉山 綾, 寺島 慶子, 加藤 隆弘 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/0002003431

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.

社会科

大塚　有将
杉山　綾
寺島　慶子
共同研究者　加藤　隆弘（金沢大学）

１．はじめに

（１）研究背景

本校では，研究主題に「新たな社会を見据えた探究的な活動に関する考察」と定め，Society.5.0 という新しい社会を見据え，新設教科「創造デザイン科」を中心に，実社会との繋がりのある授業実践を試みてきた。

内閣府によると Society5.0 とは，「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより，経済発展と社会問題の解決を両立する，人間中心の社会（Society5.0）であり，「狩猟社会（Society1.0），農耕社会（Society2.0），工業社会（Society3.0），情報社会（Society4.0）に続く，新たな社会を指すもの」とされている 1)。第６期科学技術・イノベーション基本計画では，国内外の情勢を踏まえて Society5.0 の概念をさらに具体化し，目指すべき Society 5.0 の未来社会像を「持続可能性と強靭性を備え，国民の安全と安心を確保するとともに，一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会」と表現している 2)。そのような社会の実現に具体的に必要なものの１つとして，「新たな社会を支える人材の育成」を掲げており，自ら課題を発見し，解決方法を模索することで，探究的な活動を通じて身に付く資質・能力を磨き高めることにより，多様な幸せを追求し，課題に立ち向かう人材を育成することを重視している 3)。

本校では，探究的な活動を通じて身に付く資質・能力の中でも，潜在的な問題を見出し，既存の考えにとらわれることなく，アイデアを広げ，新たな価値を生み出すことができる能力である「創造的問題解決能力」を身につけることを重視する。学校教育において，「創造的問題解決能力」を育成できる場の一つとして，「総合的な学習の時間」が位置付けられる。

「総合的な学習の時間」では，探究のプロセス（図１）を通した「探究的な活動」において，「問題発見・解決能力」の育成が求められており，これは創造的問題解決能力を構成する要素の一つである。また，「総合的な学習の時間」は，各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け，実社会・実生活において活用できるものとすることも求められている 4)。

本校では，令和３年度より文部科学省から研究開発学校の指定を受け，「総合的な学習の時間」の代用として創造的問題解決能力の育成に特化して教科化した「創造デザイン科」を新設した。本研究は，「創造デザイン科」で実施する「探究的な活動」へ，各教科等の資質・能力がどのように関わるのかを考察していく。

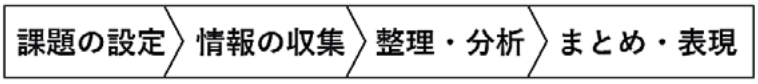


図１「総合的な学習の時間」に実施が求められる探究プロセス

(2)「探究的な活動」と社会科の関わり

「総合的な学習の時間」では，「各教科等における見方・考え方を総合的に活用して，広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え，実社会・実生活の課題を探究し，自己の生き方を問い続ける」ことが求められており4)，それらを通して身に付ける見方・考え方を「探究的な見方・考え方」と呼んでいる5)。社会科の資質・能力が探究のプロセスにおいて，どのように関連するのか考察することで，「探究的な活動」をより深めることにつながると考えられる。

社会科と「総合的な学習の時間」の連携について研究した事例は，数多く見られる。山根（2001）は，「総合的な学習の時間」が新設されるにあたり，「社会科は本来，総合的な学習の性格を色濃く持っており，今回の学習指導要領の改訂(平成10年版)によって，社会科が初期社会科のもっていた総合的性格を回復しようとしている」と述べ，戦後の日本で社会科教育の中核的な方法として位置付けられた問題解決学習と身に付けさせたい資質・能力の合致を示唆している6)。また，冨田（2020）では，基礎的・基本的な学習事項を社会科で学習し，探究的な内容を「総合的な学習の時間」で取り扱う合科的な学習過程の構築も試みられ，郷土学習において親和性のある実践となったことも報告されている7)。

社会科と「総合的な学習の時間」の目標を比較すると，両者の共通点や類似点が見られる（表１）。國原（2018）は，「『見方・考え方を働かせる』,『課題を追究し解決する』,『情報を収集・整理分析・まとめる，表現できる。』ことが共通として示され，『社会や生活の中から課題を立てる』ことや『課題解決に関わる知識と技能を習得する』ことも類似点であると考えられる」と述べている8)。

表１　総合的な学習の時間と社会科の目標（下線部は筆者による）

	目　標
総合的な学習の時間	探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，<u>よりよく課題を解決</u>し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)探究的な学習の過程において，<u>課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け</u>，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習の良さを理解するようにする。 (2)実社会や実生活の中から<u>問いを見いだし，自分で課題を立て</u>，<u>情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現</u>することができるようにする。 (3)探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，積極的に社会に参画しようとする態度を養う。
社会科	社会的な<u>見方・考え方を働かせ</u>，<u>課題を追究したり解決したりする活動</u>を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次の通り育成することを目指す。 (1)我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関して理解するとともに，調査や諸資料から<u>情報を効果的に調べまとめ</u>ている。 (2)社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる<u>課題の解決に向けて選択・判断</u>したり，<u>思考・判断したことを説明</u>したり，それらを元に議論したりする力を養う。

	(3)社会的事象について，より良い社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

また，藤井（2012）は，「総合的な学習の時間」の目標である「自己の生き方」や「社会参画」は社会科の目標となり得ること，社会科の目標である「多面的・多角的考察」は「総合的な学習の時間」の目標になり得ると述べている9)。

以上の事から，社会科と「総合的な学習の時間」ともに重視されている，探究のプロセス（図１）を構成する「課題の設定」，「情報の収集」，「整理・分析」，「まとめ・表現」の４つの要素において社会科における資質・能力と関連性が高いことが明らかになった。

(3)「探究的な活動」と社会科の関わりにおける課題

「総合的な学習の時間」と社会科の目標の相違点の分析を行った（表２）。

表２　総合的な学習の時間と社会科の目標による相違点

総合的な学習の時間	社会科
・探究的な見方・考え方を働かせる	・社会的な見方・考え方を働かせる
・自己の生き方を考えていくための資質・能力を身につける	・公民としての資質・能力の基礎を身につける
・実社会や実生活の中から問いを見つける	・社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する
・情報をまとめて表現する力を身につける	・思考・判断したことを説明したり，それらを元に議論したりする力を身につける
・積極的に社会に参画しようとする態度を養う	・社会的事象について，より良い社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う

「総合的な学習の時間」は，探究的な視点を持ち，自己の生き方を考え，社会に参画しようとする態度を育てることを目指す一方で，社会科は社会的な視点を養い，社会の課題に対して選択・判断し，説明したり議論したりする中で，より良い社会の実現を目指す態度を重視していることが分かる。

探究学習においては，４つのフェーズを繰り返すことによって探究心を高めていく（図２）。社会科では４つのフェーズについて単元を通じて行うため，単元での学びや経験を次の単元に生かす必要がある。また，習得した知識や技能を，日常生活や実際の社会問題に応用できるような実践的な学びに繋げて行く必要がある。どのような場面で何を考えるか，そのためにどのような資料が必要か，説得力のある資料をどう作るかなど，社会的な事象への見方や情報を扱うスキルを育む機会を増やす工夫が求められる。

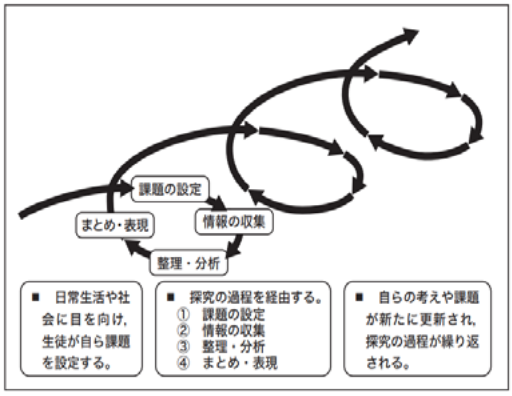


図２探究における生徒の学習の姿

2．探究的な活動（創造デザイン科）と教科等の関わりについて

（1）探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力

①探究のプロセスに活かす資質・能力

社会科と「総合的な学習の時間」の目標を比較することにより，探究のプロセスを構成の中でも「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の４つの要素において，社会科で獲得する資質や能力を応用させることができると考えた。探究的のプロセスに活用することができると考えられる社会科の資質能力について示す（表３）。

表３　探究のプロセスと関連する社会科における資質・能力

探究のプロセス	社会科における資質・能力
課題の設定	・社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力
情報の収集	・調査や諸資料から効果的に収集する力
整理・分析	・社会における課題の解決に向けて選択・判断する力 ・社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力
まとめ・表現	・調査や諸資料から情報をまとめる力 ・思考・判断したことを説明し，議論する力

昨年度は，探究のプロセス関連する社会科の資質・能力を意識しながら「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」に重点を置いた実践を行った。昨年度取り組んだ実践および成果についてまとめた（表４）。

表４　探究のプロセスに関わる実践事例および成果

	「情報の収集」に関わる実践	「情報の整理・分析」に関わる実践	「探究のまとめ・表現」に関わる実践
実践事例	・調べ学習を基にした教え合い（ジグソー学習） ・レポートの作成	・生徒が資料を基にスライドを作成	・レポートの作成 ・振り返りシートの活用 ・ミニプロジェクトの実施
成果	・必要な情報の取捨選択を行っていた。 ・予め仮説を立ててから，情報収集にあたっていた。	・意見交換をすることで，情報を付け足したり削ったりしていた。 ・思考ツールを活用して情報を分析していた。	・単元の終末では思考の深まりが見られた。 ・内容によって，図やイラストを用いるなど，まとめ方を工夫していた。

各実践の成果により，「情報の収集」「情報の整理・分析」「探究のまとめ・表現」が相互に関わり，探究のサイクルが形成されていること分かる。例えば，情報の収集では，調べ学習や教え合いを通じて仮説の検証を行い，その後の整理・分析に繋がっている。また，情報の整理・分析では，意見交換やスライド作成を通じて集めた情報を吟味し，その結果をまとめる表現活動へと発展している。各段階が連携し，探究が循環的に行われることが分かる。

②デザイン思考のプロセスに生かされると考えられる資質・能力

本校は，令和３年度より文部科学省から研究開発学校の指定を受け，「総合的な学習の時間」を創造的問題解決能力の育成に特化して教科化した「創造デザイン科」を実施している。「創造デザイン科」は,,「総合的な学習の時間」の中で実践が求められる探究プロセス（図１・２）とは異なり,「デザイン思考」のプロセス（図３）を基にカリキュラムが作成されている。「デザイン思考」は，Society5.0 以降の社会において新たな価値を創造する資質・能力の中の「２ 新たな価値の創造に関する思考力・判断力・表現力」（表５）に含まれ，潜在的なニーズに重点を置き，価値ある新しいものを生み出すという問題解決のための思考プロセスである。

図３ デザイン思考のプロセス

表５ 新たな価値を創造する資質・能力とその定義

	新たな価値を創造する資質・能力	定義
1	新たな価値の創造に関する基礎的な知識・技能	創造やイノベーションの定義，マインドマップ，ブレインストーミングなど，新しく価値あるものを生み出すことに関する基礎的な知識・技能。
2	新たな価値の創造に関する思考力・判断力・表現力	デザイン思考に代表される，認識されていない内なる課題を見出し，最適な手立てを考えていく思考や，考えたアイデアを具体化するための論理的思考や批判的思考など。
3	新たな価値の創造に関する態度	「既存の考えに捉われることなく，斬新な発想を歓迎し，失敗してもいいからひとまずやってみる。」,「自分には，周囲の世界を変える力がある。自分には，何かを生み出し，実行する力がある。」など，イノベーターが有している態度。

昨年度「創造デザイン科」のカリキュラムを「共感」「問題定義」，「創造」「プロトタイプ」，「テスト」の３段階に分け（表６），各段階において生徒が考えた「必要だった力」と，その力に関する教科等について，テキストマイニングを用いた調査を行った。調査の結果は次（表７）の通りである。さらに，「必要だった力」の内，社会科のポイントが高かったものをまとめた（表８）。

表６ 評価のために分けた3つの段階

「共感」「問題定義」	生徒が人に共感し，潜在的なニーズを見出し，課題を設定する段階。
「創造」「プロトタイプ」	設定した課題の解決策を考え，アウトプットする段階。
「テスト」	アウトプットしたことに対する評価を行うとともに，取り組んだプロジェクトを他者にプレゼンテーションすることを通して，活動自体に対する評価を行う段階。

表7 各段階において生徒が考える「必要だった力」（昨年度のアンケートより）

段階	① 「共感」「問題定義」	② 「創造」「プロトタイプ」	③ 「テスト」
生徒が各段階において必要だったと考える力	A 様々な視点から物事を見る力 B コミュニケーション能力 C 計画を立てて行動する力 D 人に気持ちを考える力 E 問題や課題を見つけ，解決策を考える力 F アイデアを生み出す力 G 自分の意見を相手に伝え，話し合うことで，考えを広げる力	A グループで協力する力 B 計画を立て，積極的に構想する力 C 様々な視点から物事を見る力 D 問題を見つけ，具体的に解決すべき課題を設定する力 E コミュニケーションを通して情報を収集する力 F 相手の気持ちを考えつつ話し合い，班の意見をまとめる力 G 自分たちが実現したいアイデアを考える力	A 計画を振り返り，問題や課題を見つける力 B 自分たちが行った活動を分かりやすく相手に伝える力 C 物事を客観的に見て，分かりやすいスライドを作る力 D データや活動の結果から必要な情報を整理し，要点をまとめる力 E 活動の結果から結論を出すために，コミュニケーションをとる力 F 班のメンバーと話し合い，改善点を考える力

表８ 生徒が考える「必要だった力」とその力に関係する教科と「社会科」との関係

デザイン思考のプロセスの段階	「社会科」のポイントが他教科と比較して高い項目
① 「共感」「問題定義」	A 様々な視点から物事を見る力 E 問題や課題を見つけ，解決策を考える力
② 「創造」「プロトタイプ」	B 計画を立て，積極的に構想する力 C 様々な視点から物事を見る力 D 問題を見つけ，具体的に解決すべき課題を設定する力
③ 「テスト」	A 計画を振り返り，問題や課題を見つける力

生徒への調査から，デザイン思考のプロセスの中で社会科と関わるものとして，どの段階でも共通して，様々な視点から物事を見る力」や「問題や課題を見つけ，解決策を考える力」が必要だったと考えていることが分かる。実際に創造デザイン科で行われた生徒のプロジェクトでは，①「共感」「問題定義」の段階で，自分たちの目線だけで課題を捉えようとして本質が見えなかった例，②「創造」「プロトタイプ」の段階で，１つの解決策だけを考えていたため，上手くいかずプロジェクトが止まってしまった例なども見られた。③テストの場面では，「自分たちにとって」「相手にとって」の成果を振り返る班も見られた。

デザイン思考のプロセスにおいて「多面・多角的」に物ごとを見たり，考えたりする力が必要であり，社会科が担う役割が大きいことが分かった。

また，昨年度社会科で行った実践からも，本質に迫る課題解決のために，社会科の見方・考え方を働かせた多面的・多角的に考察する力の育成が課題となった。

（２）探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力を育成するための手立て

今年度は，（１）で述べた探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力として①のの探究のプロセスに活かす資質・能力の育成を前提としながら，②の創造デザイン科に生かされると考えられる資質・能力として，社会科の見方・考え方を働かせた「多面的・多角的に考察する力」の育成に重点を置いた実践を行う。「多面的な考察」を対象における異なる側面に注目して考えることとし，「多角的な考察」を視点や視野を変えて考えることとする。様々な立場や視点を行き来することで，新たな考えに気付き，考えを深められることを期待する。

第２学年

第２学年では，社会的事象に関わる必要な情報を収集，整理・分析する中で，基礎的知識を身につけるとともに，社会的な見方・考え方について複数の視点から考察することで，理解を深めることができるよう授業を進めている。

習得した社会的知識について，複数の立場や利点と難点の双方について考察し，他の地方との比較などを通して新たな気付きを得るとともに，さらなる疑問・課題設定へとつなげようとする態度の育成を図りたいと考えている。

①「多角的な思考」に関わる実践

・社会的基礎知識をもとに考察する

歴史的分野の「近世　社会の変化と幕府の対策」の単元において，江戸時代に幕府が行った政治改革について，その是非を問う学習活動を取り入れた

まず前時までの授業で，江戸時代に飢饉や自然災害に伴う幕府の財政の悪化に対して，徳川吉宗が行った享保の改革について学習した。さらに実施された様々な政治改革における効果の有無から，享保の改革の是非を考察する学習を行った。実施された複数の改革の中で，より効果的で重要だと思われるものを絞り，その政策について複数の立場からその効果の有無を考えることで幕府の行った政治改革の是非に迫ることとした（図４）。以下（図５，図６）は生徒が記入した思考ツールと享保の改革の是非についてＡ～Ｃで評価したものである。

① 享保の改革で行われた取り組みの内，より効果的で重要だと思うものを4つに絞る。
② 4つの取り組みについて，A 武士，B 町人，C 百姓，D 幕府の4つの立場（身分）から，その効果や負担を考察する。
③ ②の考察を踏まえて，4つの取り組みから享保の改革の是非を A･B･C 三段階で評価する。

図４　考察の手順

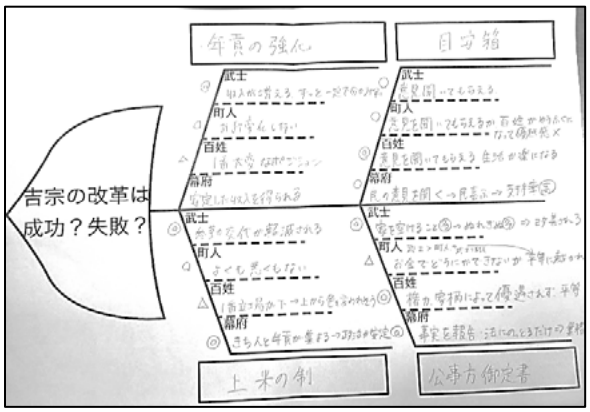


図５　生徒が記入したワークシート①

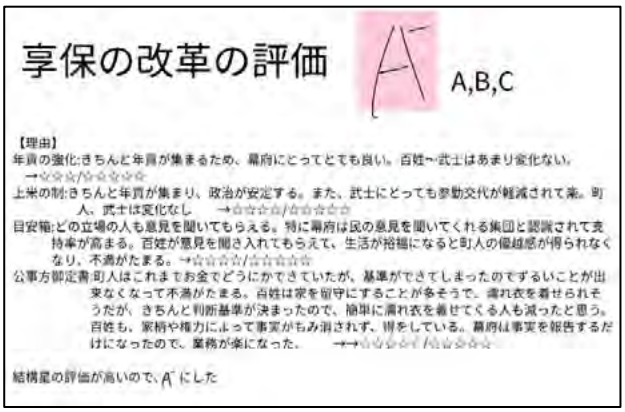


図６　生徒が記入したワークシート②

②「多面的な考察」に関わる実践

・幕末時の開国に伴う混乱と尊皇攘夷運動

江戸幕府の行った政治改革の是非を問う活動では，多角的な視点を取り入れた考察を行い，異なる複数の立場（身分）から捉えることができたが，その根拠となる情報の収集や多面的な考察に課題が残った。そこで次の単元である「開国と幕府の終わり」では，開国にいたる一連の動きと幕府の混乱・滅亡までの学習を通して，江戸幕府滅亡の理由について，多面的な視点から考察させることをねらいとした。詳細は学習指導案に記載した。

第３学年

昨年度の課題として，生徒が地域の課題を自ら発見し，それについて深く考える力が不足していたことや，地域社会への関心が低く，課題解決において表面的な解決策に終始することが多かった点が挙げられる。

今年度は，社会科の見方や考え方を働かせながら多面的・多角的に思考する力を育成し，物事をさまざまな視点から捉え，社会における課題に対して，よりよい社会の実現を見据えた解決策を導き出せるようにすることを目指す。

③「多角的かつ多面的な考察」に関わる実践

・テーマごとに深く調べ，スライドにまとめる活動

公民的分野の「現代社会と私たち」中の小単元「私たちと文化」では，文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し，表現することをねらいとし，「私たちの生活において，なぜ文化が大切にされるのか。」という問いに対して多面的・多角的に考察するため，グループごとにテーマ（表９）を決め，調べ学習を行い，スライドにまとめる活動を行う。

表９　調べ学習のグループごとのテーマ

多面的視点	多角的視点
1　科学技術（最新の科学技術等も含む）	6　地域によって異なる多様な文化
2　宗教（絵画・音楽など宗教による文化など含）	7　世界に広がる日本の文化
3　芸術の役割と課題（音楽，絵画，映画，小説など）	8　日本の中の国際的な文化
4　専門家が受け継いできた伝統文化	9　多文化共生の実現
5　生活文化・年中行事	

授業の構成は以下（図７）の通りである。各グループの発表を聞いて，個々にワークシート（図８）を用いて情報を整理し，ワークシートをもとに，「私たちの生活において，なぜ文化が大切にされるのか。」という問いについて考察し，タブレット端末を用いて共有を行う。

１時　文化の役割を知る，テーマ決め
２時　個人で調べる，スライド作成
３時　発表，問い「私たちの生活において，なぜ文化が大切にされるのか。」に対する答えの考察

図７　小単元「私たちと文化」の単元構成（３時間）

図８　ワークシート

・多面的・多角的な視点を入れて企画書を作成する活動

公民的分野の「現代社会と私たち」中の小単元「生産と労働」では，企業の生産活動や金融にかかわる様々な事象から課題を見出し，対立と合意，効率と公正などの見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する。その過程や結果を適切に表現することをねらいとし，「私たちの社会や生活を豊かにするために，企業にはどのような役割があるのか。」という問いに対して多面的・多角的に考察するため，単元の終末で，個人で起業をすることを想定した企業の企画書を書く活動を行う。

企業の企画書に入れる項目は以下（表 10）の通りである。

表 10 企業の企画書に入れる項目

多面的視点 （企業の運営に関わる複数の要素）	多角的視点 （市場や社会全体からみた企業の役割）
・事業の目的 ・事業内容 ・事業形態 ・従業員の求人 （給与・雇用形態・労働条件）	・CSR（企業の社会的責任） ・価格設定（市場経済） ・資金調達（金融） ・事業改善（景気変動） ・海外との競争（経済のグローバル化）

小単元を通して，企業の役割に関する要素を多面的・多角的視点から考え，単元の終わりに企画書にまとめる。企業が商品やサービスを提供することにより，消費者が必要なものを手に入れることができること，また労働者に働く場所を提供していること，さらに，環境への配慮や従業員の働き方の改善といった持続可能な社会に向けた責任についてもふまえて，多面的・多角的な考えをもてるように学習を進めていきたい。

３．探究的な活動を通した生徒の意識（や取組など）を用いた考察

第２学年

①「多角的な思考」に関わる実践

江戸幕府が行った政治改革の是非を問う学習では享保の改革について，その目的や実施内容の理解だけではなく，異なる立場（身分）の人々にとってその効果や負担はどうだったかと考察することで，改革を総合的に捉えることを狙いとした。思考ツールを用いた生徒のワークシートからは，１つの取り組みが異なる身分の人々にとってどのような影響があったかを考察し，その取り組みの是非を考察する様子が見られた。さらに行われた改革の中から，４つの取り組みに絞って考察することで，享保の改革の是非を総合的に捉えている意見が多数見られた。

しかし異なる身分の人々への影響については，生徒の主観のみで考察され，根拠が不明瞭なものが多く，十分に思考を深めることが難しい生徒も見られた。さらに武士・町人・百姓に対して幕府が与える影響などを踏まえて捉えることができていなかったため，「幕府には良かったが，武士や百姓にはあまり効果がなかった」という意見も見られた。多角的に考察する意識付けとしてある程度の効果はあったように思うが，相互に及ぼす影響や関わりを基に考察するなどの工夫が必要だと感じた。

②「多面的な思考」に関わる実践

ペリー来航から江戸幕府が倒れるまでの学習を終えた後の幕府が滅亡した原因を考察する学習では，当時の様々な出来事や欧米諸国との対応がもたらす影響をふまえ，幕府滅亡の原因について「国内問題」「財政問題」「対外政策」のどの割合が高いか考えることとした。幕府滅亡に関わるできごとを個人で色別の付箋に記入し，それらの出来事の関連や幕府滅亡への影響についてグループで考察した。グループでの意見交流ではピラミッドチャートを用いることで，思考の整理をすることができていたように感じる（図９，10）。

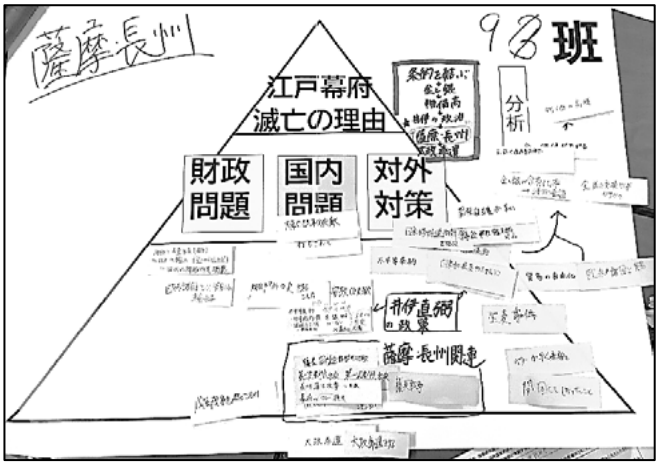


図９ グループでの意見

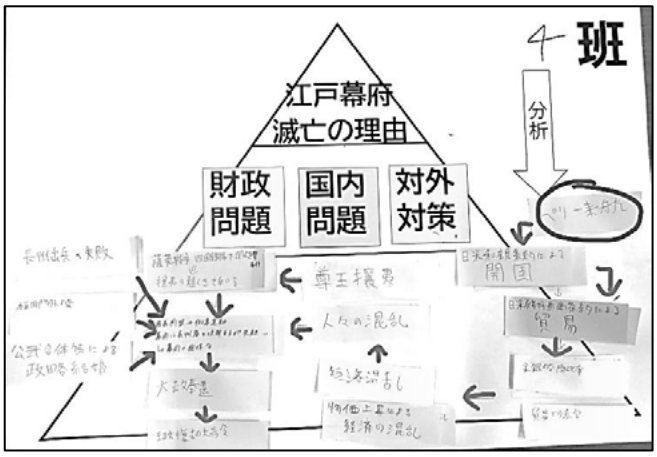


図 10 グループでの意見

グループでの意見交流の後，各自で再度，幕府滅亡における原因について３つの分野のどの部分が大きいかを考察し，それを帯グラフで示した。様々な出来事や幕府の対応などが複雑に関連し合っていること，開国をせずに鎖国を続けた場合はどうなっていたかと予想するなど，学習の内容を基にじっくりと考察しているものが見られた（図 11，12，13）。

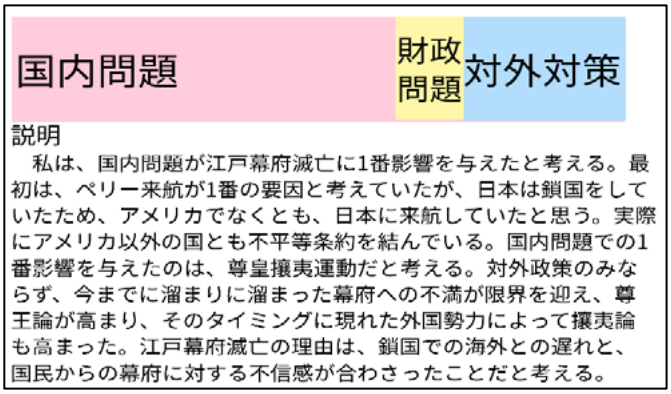


図 11 生徒の作成したグラフ

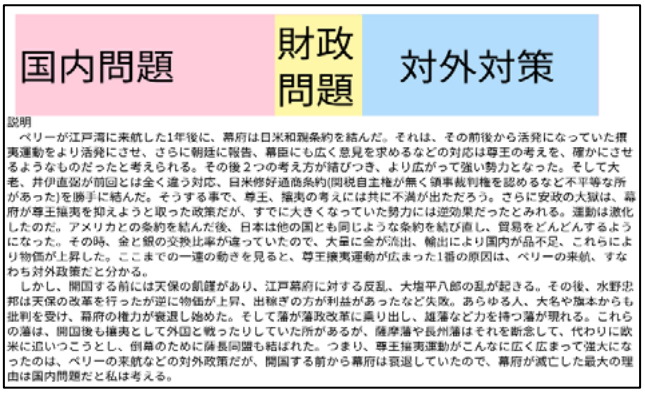


図 12 生徒の作成したグラフ

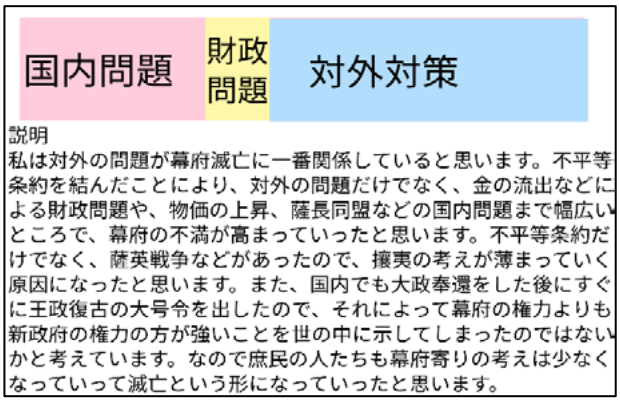


図 13 生徒の作成したグラフ

それぞれの分野の割合だけでなく，それらの相互の関わりや与える影響など，関連づけて考察できている生徒も多く，多面的且つ多角的に考察をしている様子も見られた。

しかし，３つの分野の割合だけを考えてしまう生徒も多く，中にはペリー来航が幕府滅亡の原因だと捉えているものもあった。さらに，授業に関する生徒アンケートにおいても，「社会科の授業で身に付く力」として，「物事を様々な視点から捉える力」＝多面的な考察（77．9%），「物事を様々な立場から考える力」＝多角的な考察（69%）と，社会科における多面的・多角的思考力の必要性を感じている生徒が多く見られたが，「自分が身に付いた（できた）と感じる力」という問いでは，多面的な考察（55.8%），多角的な考察（54%）と約半数に留まっていた(図14,15)。

このことから，授業における多面的・多角的な考察のための意識付けやペア・グループでの意見交流における多面的・多角的考察の深まりを狙う場面の設定が課題だと感じた。

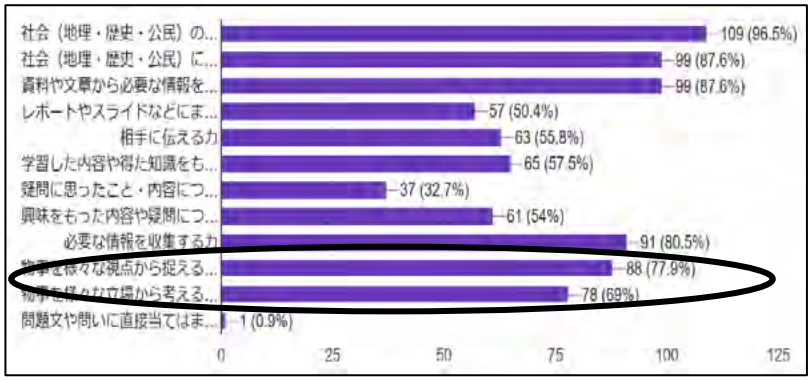


図 14 社会科の授業で身に付く力

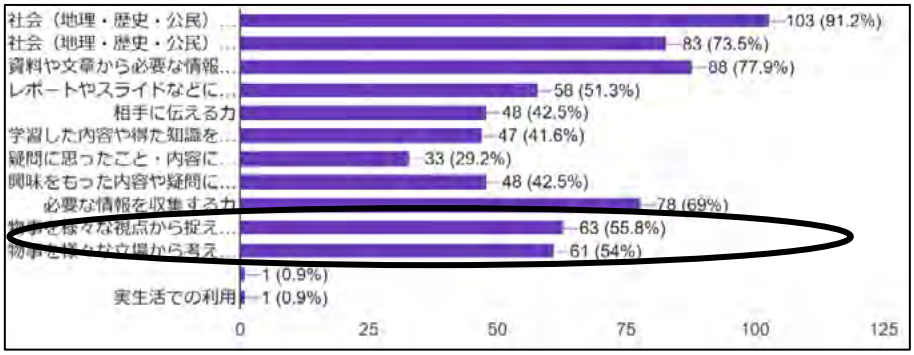


図 15 自分が身に付いた（できた）と感じる力

第３学年

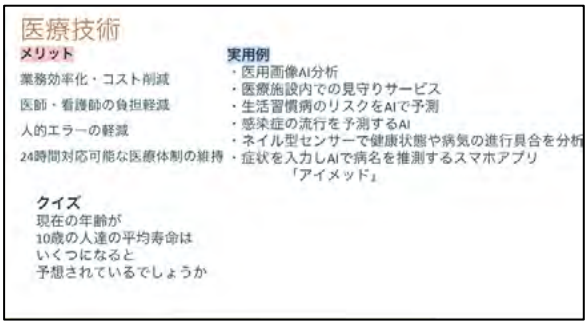
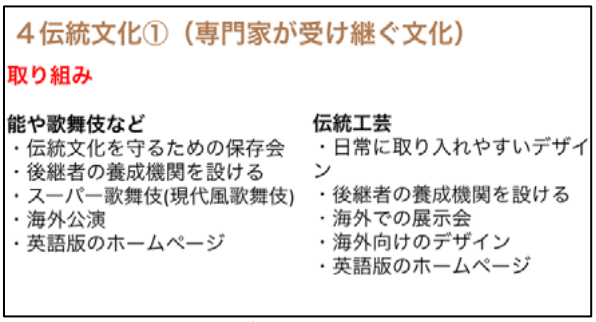
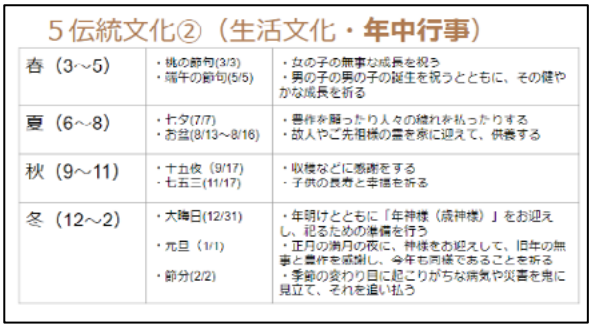
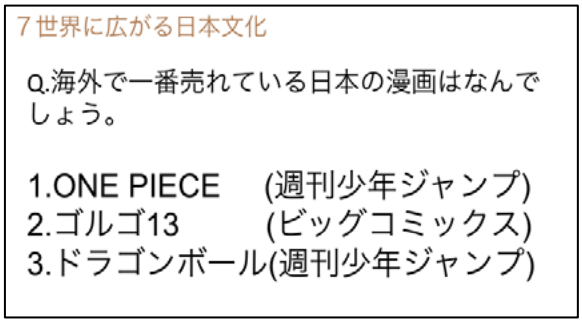
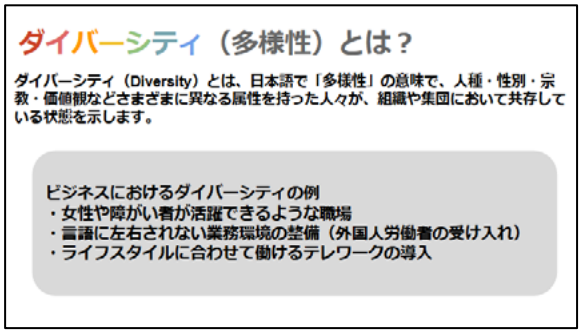
第３学年では，生徒が課題に対して多面的・多角的に考察するため，以下の実践を行った。

③「多角的かつ多面的な考察」に関わる実践

・テーマごとに深く調べ，スライドにまとめる活動

公民的分野の「現代社会と私たち」中の小単元「私たちと文化」で，文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し，表現することをねらいとし，グループごとにテーマを決めて調べ学習を行い，スライドにまとめる活動を行った（表 11）。

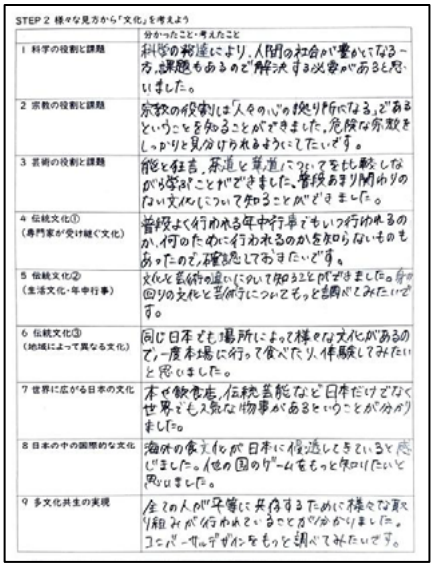
表 11 グループごとのテーマと発表スライド

	多面的視点	多角的視点
テーマ	1　科学技術 2　宗教 3　芸術の役割と課題 4　専門家が受け継いできた伝統文化 5　生活文化・年中行事	6　地域によって異なる多様な文化 7　世界に広がる日本の文化 8　日本の中の国際的な文化 9　多文化共生の実現
生徒作成スライド	 医療技術 メリット 業務効率化・コスト削減 医師・看護師の負担軽減 人的エラーの軽減 24時間対応可能な医療体制の維持 実用例 ・医用画像AI分析 ・医療施設内での見守りサービス ・生活習慣病のリスクをAIで予測 ・感染症の流行を予測するAI ・ネイル型センサーで健康状態や病気の進行具合を分析 ・症状を入力しAIで病名を推測するスマホアプリ「アイメッド」 クイズ 現在の年齢が10歳の人達の平均寿命はいくつになると予想されているでしょうか テーマ：科学技術  ４伝統文化①（専門家が受け継ぐ文化） 取り組み 能や歌舞伎など ・伝統文化を守るための保存会 ・後継者の養成機関を設ける ・スーパー歌舞伎(現代風歌舞伎) ・海外公演 ・英語版のホームページ 伝統工芸 ・日常に取り入れやすいデザイン ・後継者の養成機関を設ける ・海外での展示会 ・海外向けのデザイン ・英語版のホームページ テーマ：専門家が受けつぐ文化  ５伝統文化②（生活文化・年中行事） 春（3～5） ・桃の節句(3/3) ・端午の節句(5/5) ・女の子の無事な成長を祝う ・男の子の男の子の誕生を祝うとともに、その健やかな成長を祈る 夏（6～8） ・七夕(7/7) ・お盆(8/13～8/16) ・豊作を願ったり人々の疲れを払ったりする ・故人やご先祖様の霊を家に迎え、供養する 秋（9～11） ・十五夜（9/17） ・七五三(11/17) ・収穫などに感謝をする ・子供の長寿と幸福を祈る 冬（12～2） ・大晦日(12/31) ・元旦（1/1） ・節分(2/2) ・年明けとともに「年神様（歳神様）」をお迎えし、祀るための準備を行う ・正月の満月の夜に、神様をお送えして、旧年の無事と豊作を感謝し、今年も同様であることを祈る ・季節の変わり目に起こりがちな病気や災害を鬼に見立て、それを追い払う テーマ：生活文化・年中行事	 ７世界に広がる日本文化 Q.海外で一番売れている日本の漫画はなんでしょう。 1.ONE PIECE　(週刊少年ジャンプ) 2.ゴルゴ13　(ビッグコミックス) 3.ドラゴンボール(週刊少年ジャンプ) テーマ：世界に広がる日本の文化 日本と外国の風習の違い ・いただきます、ごちそうさま ・敬語 ・家に入る時に靴を脱ぐ ・お土産 バレンタインデー (外国から入った) 女性▶男性 男性▶女性 ホワイトデー 男性▶女性 日本独自 テーマ：日本の中の国際的な文化  ダイバーシティ（多様性）とは？ ダイバーシティ（Diversity）とは、日本語で「多様性」の意味で、人種・性別・宗教・価値観などさまざまに異なる属性を持った人々が、組織や集団において共存している状態を示します。 ビジネスにおけるダイバーシティの例 ・女性や障がい者が活躍できるような職場 ・言語に左右されない業務環境の整備（外国人労働者の受け入れ） ・ライフスタイルに合わせて働けるテレワークの導入 テーマ：多文化共生の実現

各グループに分かれ，教科書・資料集をもとに，より詳しい内容についてタブレット端末を活用して情報の収集を行った。グループによって，表にまとめたり，絵や図を書いたり，クイズを作ったりするなど，分かりやすく伝えるための工夫が見られた（表 11）。発表は質疑応答を含めて１グループ 10 分を目安に行った。

発表を聞きながら，ワークシートにキーワードを記録する姿や，１グループの発表に対して気づいたことや考えたことを書く生徒の姿も見られた（図 16）。

全てのグループの発表が終わった後，ワークシートの記録を参照しながら，個々で単元のまとめを文章で書く活動を行った。生徒が書いた単元のまとめは次の表（表 12）の通りである。



STEP 2 様々な見方から「文化」を考えよう

	分かったこと・考えたこと
1 科学の役割と課題	科学の発達により，人間の社会が豊かになる一方，課題もあるので解決する必要があると思いました。
2 宗教の役割と課題	宗教の役割は「人々の心の拠り所になる」ということを知ることができました。危険な宗教をしっかりと見分けられるようにしたいです。
3 芸術の役割と課題	能と狂言，茶道と華道についてをも動しながら学ぶことができました。普段あまり関わりのない文化について知ることができました。
4 伝統文化①（専門家が受け継ぐ文化）	普段よく行われる年中行事でもいつ行われるのか，何のために行われるのかを知らないものもあったので，確認しておきたいです。
5 伝統文化②（生活文化・年中行事）	文化と芸術の違いについて知ることができました。春の四季の文化と芸術についてもっと調べてみたいです。
6 伝統文化③（地域によって異なる文化）	同じ日本でも場所によって様々な文化があるので，一度本場に行って食べたり，体験してみたいと思いました。
7 世界に広がる日本の文化	本で飲食店，伝統芸能など日本だけでなく世界でも人気な物事があるということが分かりました。
8 日本の中の国際的な文化	海外の食文化が日本に伝来してきていると感じました。他の国のゲームをもっと知りたいと思いました。
9 多文化共生の実現	全ての人が平等に共存するために様々な取り組みが行われていることが分かりました。ユニバーサルデザインをもっと調べてみたいです。

図 16 生徒が書いた発表メモ

表 12 単元のまとめの記述とキーワード

	単元を貫く課題「私たちの生活において，なぜ文化が大切にされるのか」	
生徒	単元のまとめ	キーワード
A	私たちの生活において，文化は社会的な結びつきを形成したり，時には，私たちの価値観や行動の基盤，他者との共感やコミュニケーションも可能したりする。このように文化は複数の重要な社会の役割を担い，経済的な成長も支えるため，今でも大切にされている。	価値観 行動の基盤 共感 コミュニケーション 経済成長
B	日本の昔からの伝統や技術，思いなどが詰まった叡智の結晶である日本特別の伝統文化をこれからの社会を生きていく人たちのために受け継いでいき，そこから枝つなぎにその文化を多くの人に知っていき，自国である日本というものをより理解してもらうためである。	伝統文化 技術 受け継ぐ 自国
C	文化が存在し尊重されることで全員が豊かで生きやすい生活を送ることができるようになっており，精神的な幸せを得ることができるため，大切にされている。一方で課題も存在しており，<u>私たち自身による努力や心がけが必要だ。</u>	文化の尊重 豊か 精神的幸せ 課題

「私たちの生活において，なぜ文化が大切にされるのか」という問いに対して，多くの生徒の記述が，多面的・多角的な考察を経た単元のまとめとなっていた（表 12）。

生徒 A は，文化が人々の価値観や行動の基盤となっていることや，他者との共感やコミュニケーションを可能にするなど，複数の重要な役割を持っていることに気付いていた。

生徒 B は，文化に対して，「伝統や技術や人々の想いの詰まった叡智の結晶」と表現し，自国についてより深く知る手段であり，後世に受け継いでいくべきものだと捉えている。

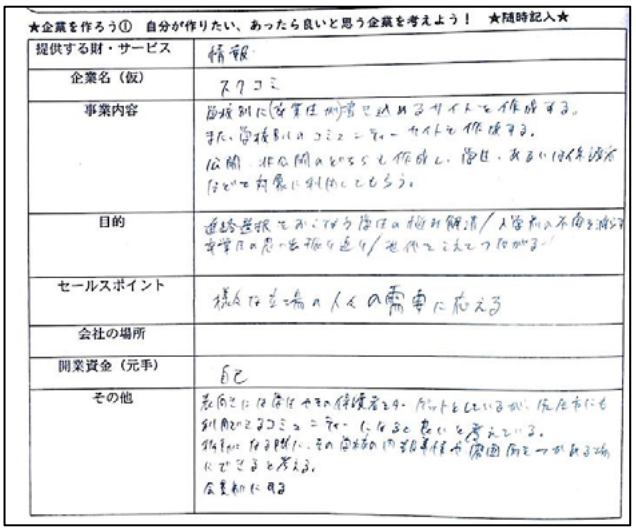
生徒 C は，文化を尊重し合うことで人々が精神的幸せを得ているという考えを持っていた。また，下線部のように今後自分たちがすべきことについても言及していた。

以上のことから，それぞれのグループの発表をもとに，生徒が多面的・多角的に考察した上で，文化に対して自分が重視するものを整理して文章にまとめることができていた。

・多面的・多角的な視点を入れて，企画書を作成する活動

公民的分野の「私たちの暮らしと経済」中の小単元「企業と経済活動」では，企業の生産活動や金融に関わる様々な事象から，課題を見出し，企業の役割に関わる要素を多面的・多角的視点から考え，企画書にまとめ，単元の終末にビジネスコンテストを行い，多面的・多角的視点から審査を行う活動を行った。

単元のはじめに，単元を貫く課題である「私たちの社会生活を豊かにするために，企業にはどのような役割があるか」という問いを立て，起業するとしたらどのような企業にしたいか，大まかな企画書を書き，授業の進行に伴い，決定した具体的な内容を書き加えていった（図 17）。

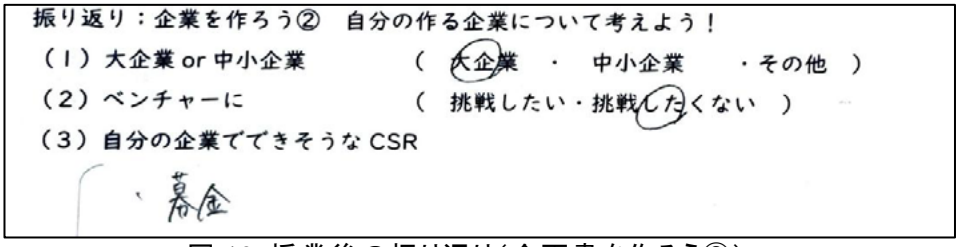

★企業を作ろう①　自分が作りたい、あったら良いと思う企業を考えよう！　★随時記入★

提供する財・サービス	情報
企業名（仮）	スクコミ
事業内容	地域別に学生が利用できるサイトを作成する。 また、学校別のコミュニティーサイトを作成する。 公開・非公開のどちらも作成し、個人・あるいは体験談などで対象に利用してもらう。
目的	通塾負担でおこなう保護者の悩み解消／入学前の不安を減少 学生の思い出振り返り／地域とえんとつながる
セールスポイント	様々な立場の人々の需要に応える
会社の場所	
開業資金（元手）	自己
その他	表向きには学生やその保護者を対象としているが、先生方にも利用してもらうコミュニティーになると良いと考えている。 将来的に、その地域の地域住民が参画側にまわれる場にできると考える。 企業和に伴う

図 17 単元の導入で書いた企画書（企画書を作ろう①）

その後，企業の役割や社会的責任，労働者の権利や経済活動の仕組みなどを学習する中で，自分の作りたい企業のイメージを具体化させていった（３年社会「単元計画」参照）。

次の図 18，図 19，図 20 は各時間の終末に生徒が書いた振り返りである。


振り返り：企業を作ろう②　自分の作る企業について考えよう！

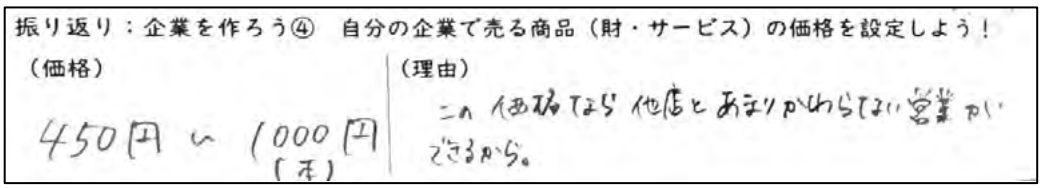
（１）大企業 or 中小企業　（ 大企業 ・ 中小企業 ・その他 ）

（２）ベンチャーに　（ 挑戦したい・挑戦したくない ）

（３）自分の企業でできそうな CSR

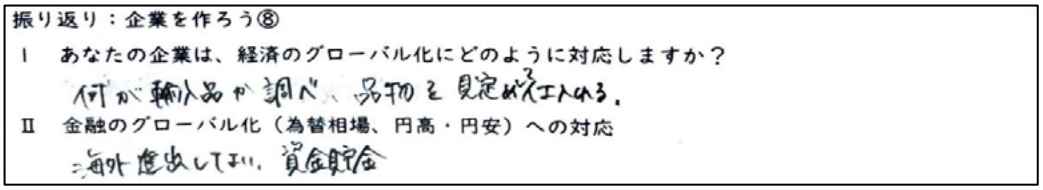
・募金

図 18 授業後の振り返り（企画書を作ろう②）


振り返り：企業を作ろう④　自分の企業で売る商品（財・サービス）の価格を設定しよう！

（価格）	（理由）
450円 ～ 1000円（平）	この価格なら他店とあまりかわらない営業ができるから。

図 19 授業後の振り返り（企画書を作ろう④）


振り返り：企業を作ろう⑧

Ⅰ　あなたの企業は、経済のグローバル化にどのように対応しますか？

何が輸入品か調べ、品物を見定め工夫する。

Ⅱ　金融のグローバル化（為替相場、円高・円安）への対応

海外進出してない、資金貯金

図 20 授業後の振り返り（企画書を作ろう⑧）

単元の学習の最後に，単元のまとめとして「起業相談会」を行った。６人グループで，自分が書いた企画書を持ち寄り，企画書の内容の説明を行った。以下の３つの視点（図 21）から，付箋に感想やアドバイスを書き，発表者に伝え，改善策を一緒に考える活動を行った（図 22）。起業相談会で出たアイデアを踏まえて，単元末のレポート課題として企業の企画書を完成させた（図 23，図 24）。

① 適切な経済活動が行われるか
価格の設定・開業資金の調達方法・企業の規模
景気変動に対する対応など
② 様々な立場の人を考えられているか
消費者・従業員・地域の人など
③社会にとって価値があるか
利潤の追求・社会的責任・労働環境など

図 21 企業の企画書「3つの相談の視点」

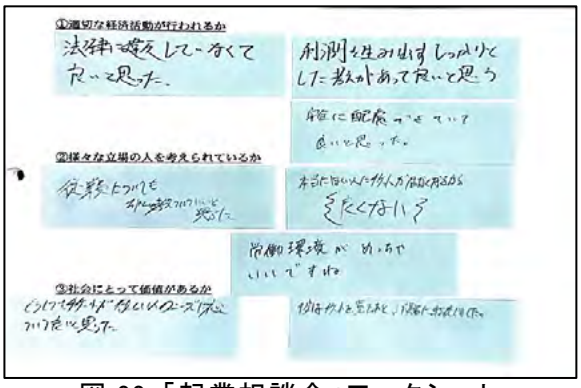
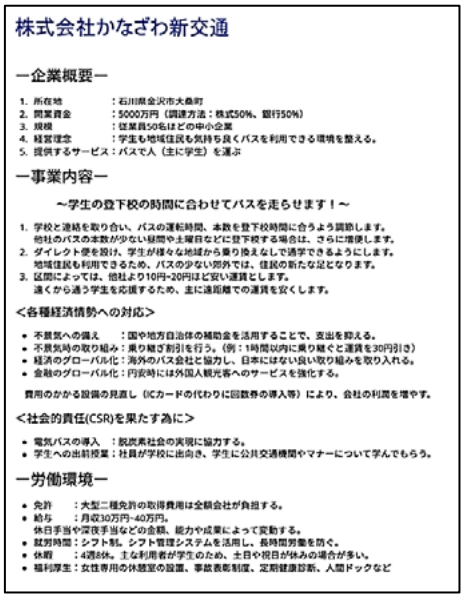


図 22 「起業相談会」ワークシート



株式会社かなざわ新交通

—企業概要—

1. 所在地　：石川県金沢市大桑町
2. 開業資金　：5000万円（調達方法：株式50%、銀行50%）
3. 規模　：従業員50名ほどの中小企業
4. 経営理念　：学生も地域住民も気持ち良くバスを利用できる環境を整える。
5. 提供するサービス：バスで人（主に学生）を運ぶ

—事業内容—

～学生の登下校の時間に合わせてバスを走らせます！～

1. 学校と連絡を取り合い、バスの運転時間、本数を登下校時間に合うよう調節します。
他社のバスの本数が少ない経間や土曜日などに登下校する場合は、さらに増便します。
2. ダイレクト便を設け、学生が様々な地域から乗り換えなしで通学できるようにします。
地域住民も利用できるため、バスの少ない郊外では、住民の新たな足となります。
3. 区間によっては、他社より10円~20円ほど安い運賃とします。
遠くから通う学生を応援するため、主に遠距離での運賃を安くします。

<各種経済情勢への対応>

- 不景気への備え　：国や地方自治体の補助金を活用することで、支出を抑える。
- 不景気時の取り組み：乗り継ぎ割引を行う。（例：1時間以内に乗り継ぐと運賃を30円引き）
- 経済のグローバル化：海外のバス会社と協力し、日本にはない良い取り組みを取り入れる。
- 金融のグローバル化：円安時には外国人観光客へのサービスを強化する。

費用のかかる設備の見直し（ICカードの代わりに回数券の導入等）により、会社の利潤を増やす。

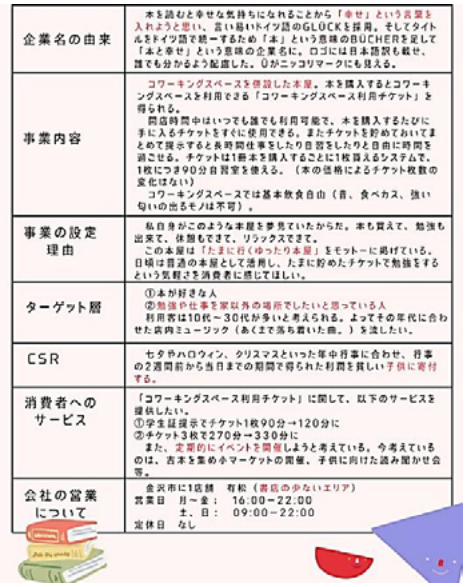
<社会的責任(CSR)を果たす為に>

- 電気バスの導入　：脱炭素社会の実現に協力する。
- 学生への出前授業：社員が学校に出向き、学生に公共交通機関やマナーについて学んでもらう。

—労働環境—

- 免許　：大型二種免許の取得費用は全額会社が負担する。
- 給与　：月収30万円~40万円。
休日手当や深夜手当などの金額、能力や成果によって変動する。
- 就労時間：シフト制。シフト管理システムを活用し、長時間労働を防ぐ。
- 休暇　：4週8休。主な利用者が学生のため、土日や祝日が休みの場合が多い。
- 福利厚生：女性専用の休憩室の設置、事故表彰制度、定期健康診断、人間ドックなど

図 23 企業の企画書完成版



企業名の由来	本を読むと幸せな気持ちになれることから「幸せ」という言葉を入れようと思い、言い易いドイツ語のGLÜCKを採用。そしてタイトルをドイツ語で統一するため「本」という意味のBUCHERを足して「本と幸せ」という意味の企業名に。ロゴには日本語訳も載せ、誰でも分かるよう配慮した。Oがニッコリマークにも見える。
事業内容	コワーキングスペースを併設した本屋。本を購入するとコワーキングスペースを利用できる「コワーキングスペース利用チケット」を得られる。 開店時間中はいつでも誰でも利用可能で、本を購入するたびに手に入るチケットをすぐに使用できる。またチケットを貯めておいてまとめて提示すると長時間仕事をしたり自習をしたりと自由に時間を過ごせる。チケット1冊本を購入することに1枚貰えるシステムで、1枚につき90分自習室を使える。（本の価格によるチケット枚数の変化はない） コワーキングスペースでは基本飲食自由（音、食べカス、強い匂いの出るモノは不可）。
事業の設定理由	私自身がこのような本屋を夢見ていたからだ。本も買えて、勉強も出来て、休憩もできて、リラックスできて。 この本屋は「たまに行くゆったり本屋」をモットーに掲げている。日頃は普通の本屋として活用し、たまに貯めたチケットで勉強をするという気軽さを消費者に感じてほしい。
ターゲット層	①本が好きな人 ②勉強や仕事を家以外の場所でしたいと思っている人 利用者は10代～30代が多いと考えられる。よってその年代に合わせた店内ミュージック（あくまで落ち着いた曲。）を流したい。
CSR	セタやハロウィン、クリスマスといった年中行事に合わせ、行事の2週間前から当日までの期間で得られた利潤を貧しい子供に寄付する。
消費者へのサービス	「コワーキングスペース利用チケット」に関して、以下のサービスを提供したい。 ①学生証提示でチケット1枚90分→120分に ②チケット3枚で270分→330分に また、定期的にイベントを開催しようと考えている。今考えているのは、古本を集めホマーケットの開催、子供に向けた読み聞かせ会等。
会社の営業について	金沢市に1店舗　有松（書店の少ないエリア） 営業日　月～金：　16:00～22:00 土、日：　09:00～22:00 定休日　なし

図 24 企業の企画書完成版

表 13 振り返りシートの記述より

生徒	企業作りの振り返り	キーワード
E	消費者に求められる商品の開発は当然のこと，労働者が「ここで働きたい」「ここで働いて良かった」と思えるようなホワイトな労働環境，事業体制を整えることができた。一方通行ではなく，消費者のニーズに応えられるよう，様々な形式での商品の提供方法を生み出し，消費者の声を聞いて開発に活かせるようにできた。	消費者のニーズ 消費者の声 労働環境 事業体制
F	企業を考える時に，グローバル化や円安・円高への対応を考えるのも難しかったです。自分の考えた企業を踏まえて，実際の企業について業務内容や工夫を調べてみたいと思いました。	グローバル化 円安・円高 業務内容・工夫
G	企業は社会がより良くなるような財・サービスを提供して，国の経済を回す役割がある。労働者の環境を整えつつ，利潤を得ることが大事だと思う。	財・サービス 労働環境 利潤

活動の後に書いた生徒の振り返り（表 13）より実際に自分が作りたい企業を考える活動を通して，企業の経済活動について，企業だけではなく消費者や労働者の立場から，景気変動やグローバル化などの社会全体への影響まで多面的に考えることができたことが分かる。

４．来年度に向けた課題

今年度は，探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力として，探究のプロセスに活かす資質・能力の育成を前提としながら，社会科の見方・考え方を働かせた「多面的・多角的に考察する力」の育成に重点を置いた実践を行った。様々な立場や視点を行き来することで，新たな考えに気付いたり，考えを深めたりできることをねらいとした実践を行った。

今年度の実践の課題として，以下の３点が考えられた。

①多面的・多角的に考察する際の課題

年度当初に行った実践では，一つの単元の中で生徒が多面的・多角的に思考できるような仕掛けを行った。その結果，生徒同士が議論を交わしながら，多面的・多角的に考える姿が見られた。しかし，まとめを書く場面では，詳しく学んだ出来事について順番に並べて記述するケースが多く見受けられた（表14）。生徒が様々な視点から得た情報をただ羅列するのではなく，それらを基に自分の考えを深められるような工夫が必要だと感じた。

表 14 単元のまとめの例

単元を貫く課題「二度の世界大戦を防げなかったのはなぜか？」
第一次世界大戦は，サラエボ事件でオーストリアの皇太子夫妻がセルビア人青年に暗殺されたため，オーストラがセルビアに宣戦布告してしまったことが原因で起こった。 第一次世界大戦でドイツが敗北したことにより，賠償金の支払いに負われたドイツは経済的に苦しくなった。そこでナチスの勢力が大きくなり，ポーランドに侵入することから第二次世界大戦も起こってしまった。
19世紀末にドイツが急速に発展し，世界へ進出しようとしたため，イギリスやフランスを対立したことから，三国同盟と三国協商の構図ができてしまった。 また，バルカン半島でオスマン帝国の力が弱まり，ロシアやオーストリアがそこに勢力を伸ばそうとしたことから，第一次世界大戦に繋がった。 第一次世界大戦後の世界恐慌により，世界中の景気が悪化し，イギリスやフランスが自国の利益を優先したブロック経済の政策をとるようになり，植民地の少ない国々が次々とファシズムの体制を整えていった。日本やドイツ，イタリアなどの同盟国とアメリカ・イギリス・フランスなどの連合国の間で第二次世界大戦が始まった。

そこで今年度は，第２学年ではグループでの意見交流の後，各自が帯グラフを用いて自分の考えを整理する時間を設けた。第３学年では，単元のまとめを書く際に，様々な視点から学んだ中で，特に重要だと思うものを取り入れてまとめることや，「つまり」や「このことから」などの言葉を用いて自分の考えをまとめるように指示した。その結果，単なる事象の羅列だけではなく，考えの深まった文章が見られるようになった。

来年度も，さまざまな立場や視点から学んだ事象をもとに自分の考えを練り上げる力を養うため，一人一台端末を用いて自分の立場を明確に示す活動をしたり，思考ツールを活用したりするなどさらなる工夫を行っていく必要があると考える。

②社会科の学習で多面的・多角的に考察する力の定着

１月に第２学年，第３学年を対象に授業に関するアンケートを行った。以下の図（図25，図26，図27，図28）は，生徒が社会科の学習で身に付くと思う力と，実際に自分に身に付いたと考える力について聞いた結果である。

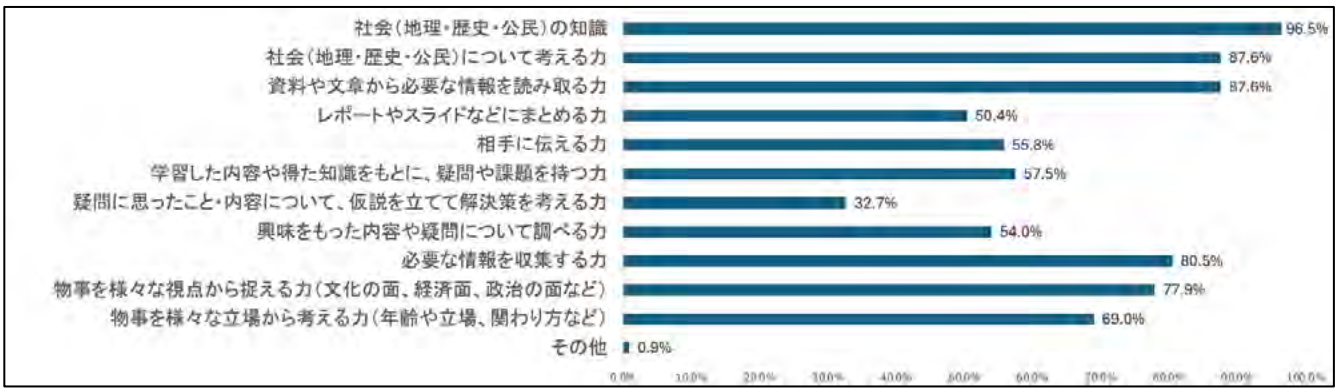


図 25 第 2 学年授業アンケート 社会科の授業で身に付くと思う力 （N=113）

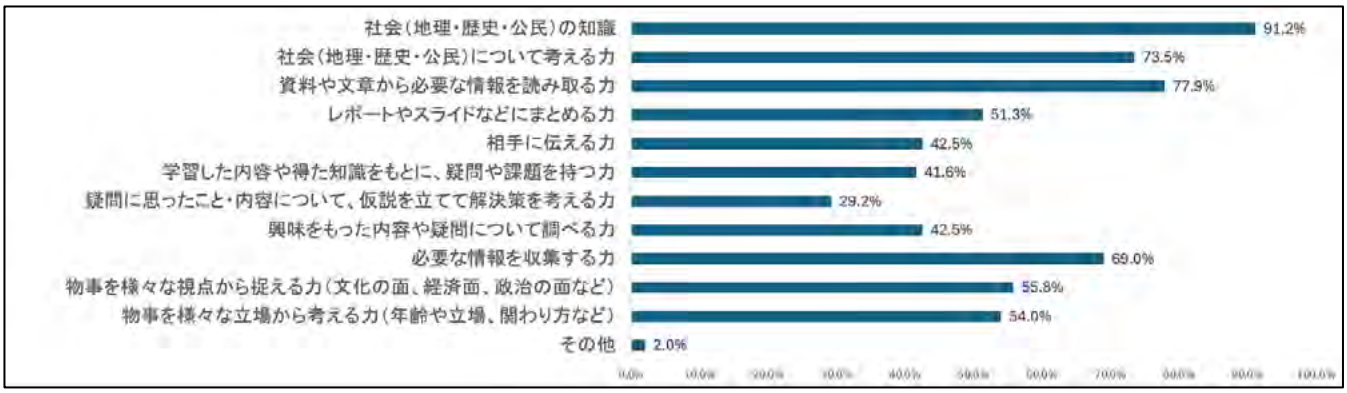


図 26 第2学年授業アンケート 社会科の授業で自分に身に付いたと思う力 （N=113）

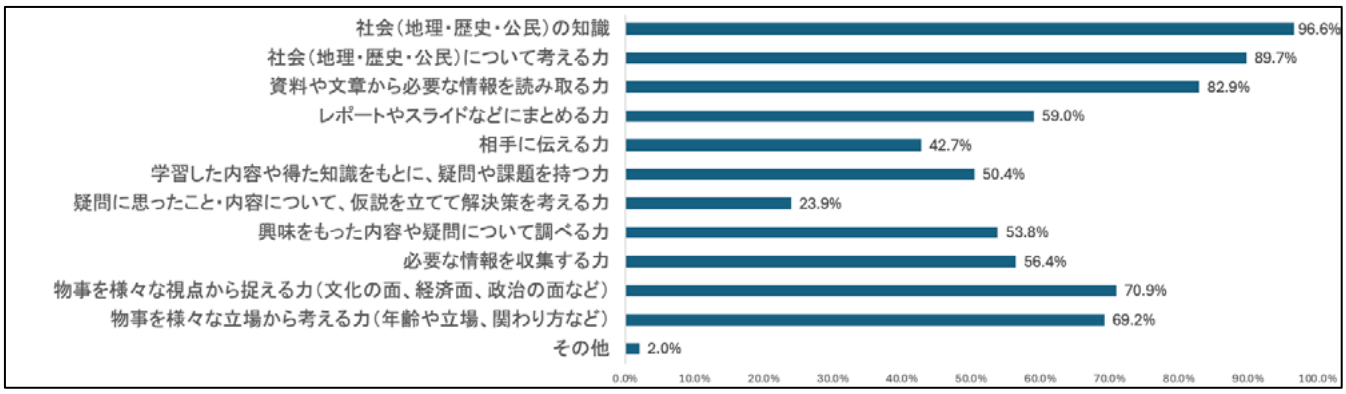


図 27 第 3 学年授業アンケート 社会科の授業で身に付くと思う力 （N=117）

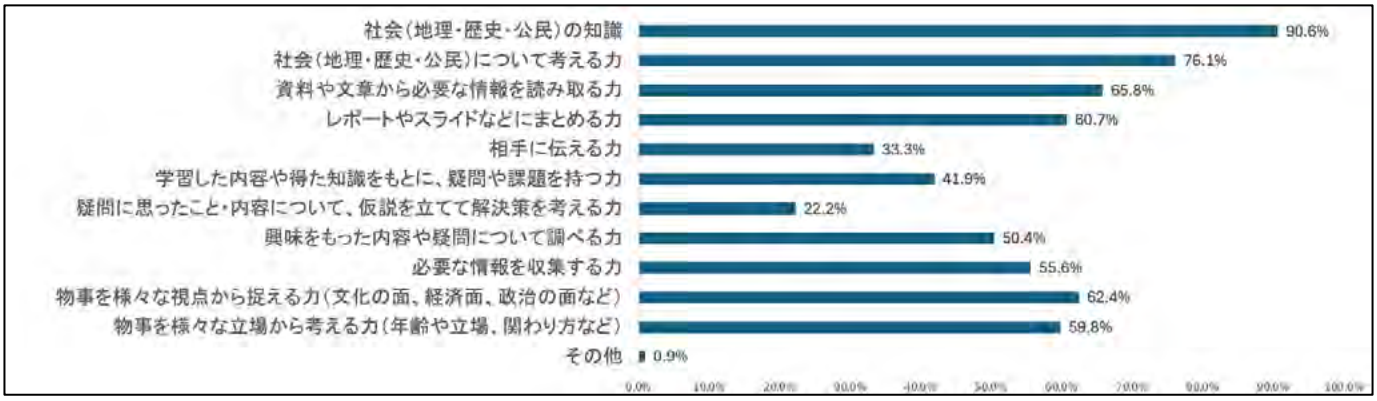


図 28 第 3 学年授業アンケート 社会科の授業で自分に身に付いたと思う力 （N=117）

アンケートの結果より，いずれの学年においても，社会科に関する知識や社会科の内容について考える力が身につくと答えた生徒の割合は90%近くに達している（図25，図27）。しかし，社会科の知識について「身についた」と答えた生徒が90%以上を占める一方で，社会科について考える力に関しては70%台まで減少することが分かる（図26，図28）。

また，資料や文章を読み取る力については，どの学年でも80%台となっており，多くの生徒が社会科の授業で身につくと考えていることが確認された（図25，図27）。

今年度の社会科の研究テーマである「多面的・多角的に考察する力」については，「物事をさまざまな視点から捉える力（文化の面，経済の面，政治の面など）」を多面的な考察，「物事をさまざまな立場から考える力（年齢や立場，関わり方など）」を多角的な考察として位置づけている。

	物事を様々な視点から捉える力（多面的な考察）	物事を様々な立場から捉える力（多角的な考察）
第1学年（昨年度）	60.1%	60.1%
第2学年（今年度）	77.9%	69.0%
第2学年（昨年度）	56.9%	50.0%
第3学年（今年度）	70.9%	69.2%

図 29「社会科の授業で身に付くと思う力」 昨年度と今年度の比較

昨年度も「社会科の授業で身に付くと思う力」についてアンケートを実施した。昨年度のデータと比較すると，「物事をさまざまな視点から捉える力」と「物事をさまざまな立場から捉える力」のいずれについても，社会科の授業で身に付くと考える生徒の割合が増加していることが分かる（図29）。このことから，多面的・多角的に考察する力を養うことを目的とした授業の実践が，生徒の意識を高め，一定の効果をもたらしたと考えられる。

しかし，今年度新たに加えた「実際に必要な力は身に付いたか」という質問については，2年生では「物事を様々な視点から捉える力」が55.8%，「物事を様々な立場から捉える力」54.0%となっており，第３学年では「物事を様々な視点から捉える力」が62.4%，「物事を様々な立場から捉える力」59.8%となっており，社会科で身に付く力だと答えた生徒の割合が10%近く下がっている（図26，図27）。

年間を通して，生徒が多面的・多角的に考察できるような実践を行った結果，生徒は以前よりもその必要性を感じるようになった。また，生徒のまとめや振り返り，レポートなどからは，多面的・多角的に考察する力が徐々に身に付いてきていることが確認できた。一方で，その難しさも理解するようになり，技能として身についたと実感している生徒は多くはない。

今後も，多面的・多角的に考察する機会を中学校３年間で系統立てて，継続的に設けることが必要であると考える。また，多面的・多角的に考察する力が身に付いてきている生徒に対しては，レポートや発表の評価を教師や生徒同士で適切にフィードバックし，さらなる成長を促していきたい。

③多面的・多角的に考察する力が創造デザイン科の活動に生かされたか

授業アンケートの中で，社会科の授業で身に付くと思う力の中で，本校の創造デザイン科の活動に生かされたと考えた力を聞いた結果が以下の通りである。

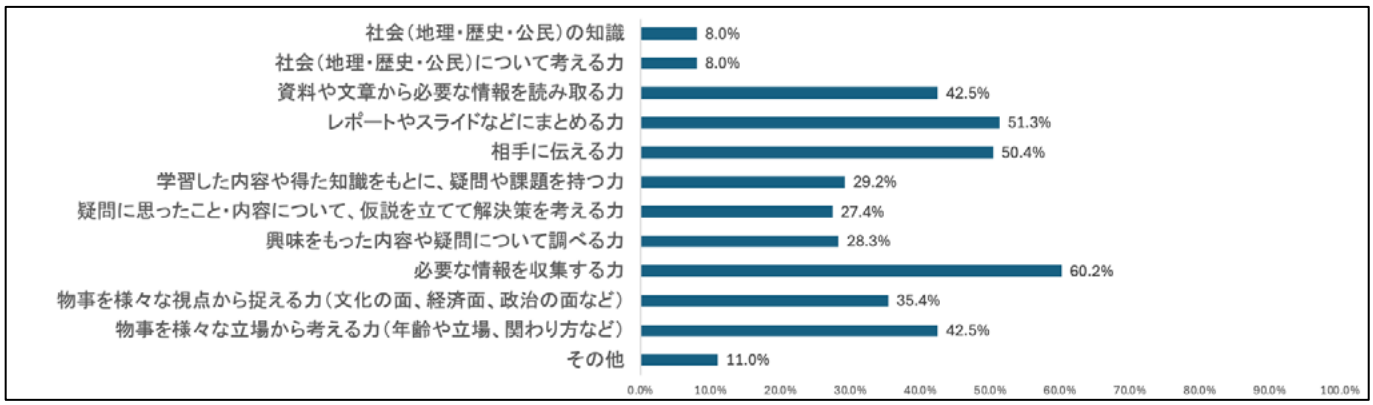


図 32 第２学年授業アンケート 社会科の授業で身に付く力の中で創造デザインの授業で生かされた力

（N=113）

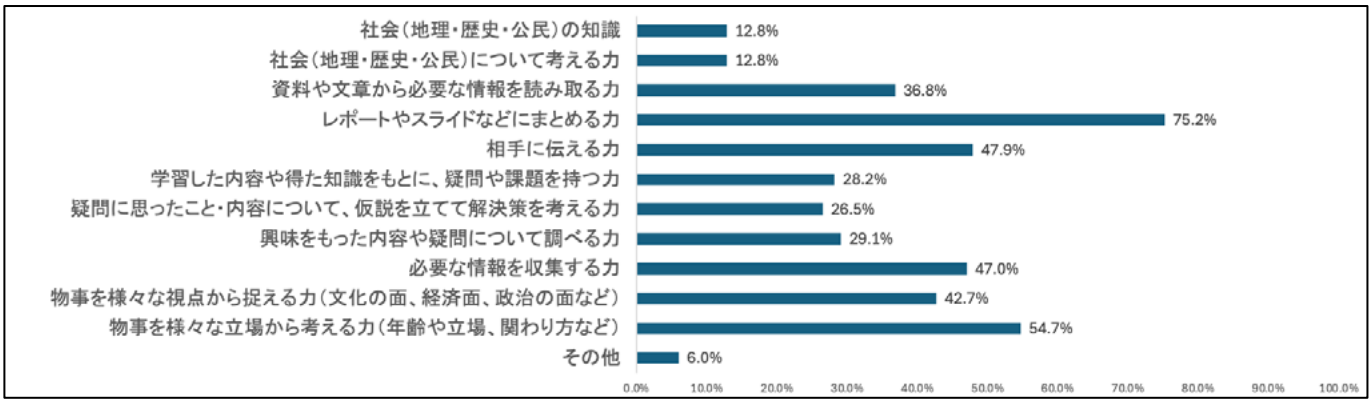


図 31 第３学年授業アンケート 社会科の授業で身に付く力の中で創造デザインの授業で生かされた力

（N=117）

第２学年では「必要な情報を収集する力」が 60.2%と最も高く，第３学年では「レポートやスライドなどにまとめる力」が 75.2%と最も高い結果となった。また，「物事を様々な視点から捉える力」は第２学年で 35.4%，第３学年で 42.7%，「物事を様々な立場から捉える力」は第２学年で 42.5%，第３学年で 54.7%という結果が得られた。

数値としては高いとは言えないものの，「物事を様々な視点から捉える力」や「物事を様々な立場から捉える力」について，生徒が創造デザイン科の探究的な活動のどのような場面で活かすことができたかを，アンケートの記述欄から読み取ることができた。

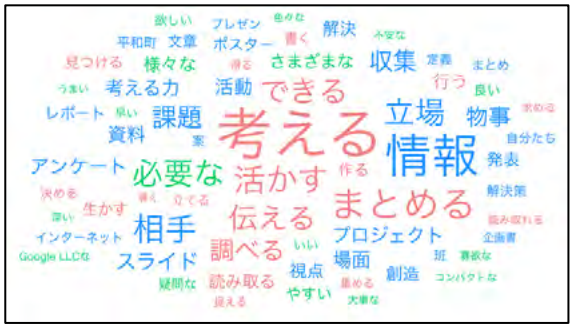


図 32 第２学年のアンケートの結果のテキストマイニング

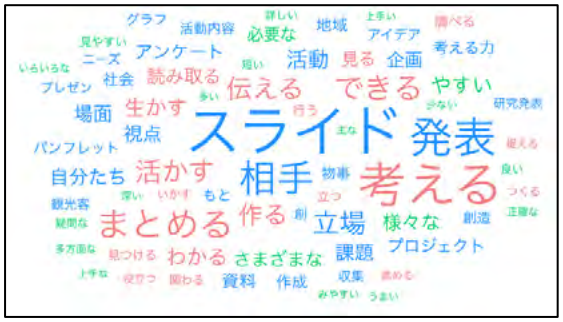


図 33 第３学年のアンケートの結果のテキストマイニング

表 15「創造デザイン科の探究的な活動のどのような場面で活かすことができたか」アンケート結果

	デザイン思考	生徒の記述
第2学年	共感 問題定義 創造 プロトタイプ	・土地などの時代背景などを知った上で，相手がどのようなことを求めており，今どのようなことをすれば良いかを考えることに生かすことができた。 ・創造の段階で，情報を収集し，さまざまな立場から考える力が，考えをより具体的なものにすることができた。 ・児童館の方々で交流するときの内容を決める時に，いろんな立場に立って考える力が生かされた。 ・プロジェクトで高校生と関わることにした。日程を決める時に，相手の都合を考えるなど，相手の立場になって考えられるようになった。
第3学年	共感 問題定義 創造 プロトタイプ テスト	・誰のためにどんなことをするかなど，様々な視点や立場から考えた。 ・相手について考える場面で，物事を様々な立場から考える力を使い，相手のメリットやニーズなどについて考えた。 ・お店にとってメリットはあるのか，住民の人たちはどのように困っているのか，と様々な立場に立って，臨機応変に考えられるようになった。 ・地域の課題を考えるときに様々な観点から考える力が生かされたと思う。 ・企業と協議を重ねていく際，自分たちのメリットデメリットばかりに囚われるのではなく，企業にかかる負担などを考えて行動することができた。 ・パンフレットを作る際に，子供から高齢者，住民から外国の方を含め，様々な視点から パンフレットのレイアウトや内容を考えることができた。 ・スライドにまとめるにあたって，グラフや資料作成，発表時に相手にどうやったら分かりやすく伝わるかを考えた。

生徒が社会科の授業で身に付くと考えた力のうち，創造デザイン科の授業で活かされた考えられる力について，どの活動でどのように生かされたかを調査した。その結果，主に情報の収集やスライド発表の場面で活用されていた。また，「様々な」「立場」「視点」「場面」など，多面的・多角的に思考する力につながるキーワードも見られた（図 32・図 33）。

さらに，生徒の記述の中で特に多面的・多角的に思考する力に関わるものを整理した（表 15）。昨年度と比べて，様々な年代や立場の人々のニーズを丁寧に聞き取り，相手の立場に立って考えたプロジェクトが多く見られた。また，解決策のアイデアについても，一つの視点にとどまらず，多様な角度から複数の選択肢を検討し，実行したグループがあった。このことから，生徒は社会科の学習を通じて培った情報収集・分析・整理の力を活かし，多面的・多角的な視点をもって探究活動に取り組めるようになったと考えられる。

しかし，生徒にとっては，それが社会科の授業で身につけた力であるという意識は必ずしも高くない可能性がある。来年度に向けては，社会科のどのような学習の場面で多面的・多角的に考察する力を育成できるのかを年間を通じて整理し，探究活動との連携をより意識的に深める必要がある。また，学習の中で培われた思考力が，日常生活や将来の社会参画に活かされることを生徒自身が実感できるように，社会科の学習全体を通じて，学びと実生活を結びつける仕組みを構築し，社会科の学習を通じて生徒が主体的に思考し，行動できるようにすることが求められる。

３. 参考文献

１）内閣府：第５期科学技術基本計画，pp. 10-11(2016)
２）内閣府：第６次科学技術基本計画，pp. 11-13(2021)
３）内閣府：第６次科学技術基本計画，pp. 14(2021)
４）文部科学省：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編，東山書房
５）文部科学省『今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究的学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現』，株式会社アイフィス(2022)
６）山根栄次：社会科と『総合的な学習の時間』との連携の可能性『三重大学教育実践総合センター紀要21号』pp. 9-16(2001)
７）冨田俊幸：カリキュラム・マネジメントによる社会科と総合的な学習の時間における合科的な郷土学習―持続可能な社会の創り手としての資質・能力の視点での一考察―『学校教育研究　No. 35』(2020)
８）國原幸一朗：中学校の『総合的な学習の時間』における探究学習―社会科と比較して―『名古屋学院大学教職センター年報　第２号』pp. 35-54(2018)
９）藤井千春：「総合的な学習の時間」と社会科，日本社会科教育学会編『新版社会科教育辞典』ぎょうせい，pp. 330-331

4．単元計画

○･･･「評定に用いる評価」●･･･「学習改善につながる評価」

次	学習活動	評価の観点(評価方法) 知	思	態	評価基準
1次 4時間扱い	小単元の学習課題　「私たちの社会生活を豊かにするために，企業にはどのような役割があるか」 【ねらい】：日本経済の発展のために，これらからの日本企業に求められることについて，多面的・多角的に考察し，表現することができる。				
	第１時　本時の課題：「企業はどのような目的で活動しているのか」				
	・企業が私たちの生活にどのように関わっているのか，身近な事例から考える。 【企画書①】 ・起業する事業の内容と目的を考える。			●	○企業の活動の目的を知り，私たちの生活に必要なモノやサービスを生産している企業の活動に関心を持っている。
	第２時　本時の課題：「企業にはどのような種類があるのか」				
	・私企業と公企業，大企業と中小企業の違いについて調べる。 【企画書②】 ・起業する企業の事業形態を考える。 ・企業が関わることができる社会的責任について考える。		○		○自分が起業するとしたら，どのような企業を創るか，企業の社会的責任に着目して，具体的な事例を基に考察し，表現している。
	第３時　本時の課題：「株式会社はどのような仕組みになっているのか」				
	・私企業と公企業，大企業と中小企業の違いについて調べる。 【企画書②】 ・起業する企業の事業形態を考える。 ・企業が関わることができる社会的責任について考える。		○		○自分が起業するとしたら，どのような企業を創るか，企業の社会的責任に着目して，具体的な事例を基に考察し，表現している。
	第４時　本時の課題：「労働者の権利を守るために，どのような取り組みがなされているか」				
	・労働者の権利，ワークライフ・バランス，非正規雇用，外国人労働者の雇用について調べ，共有する。 【企画書④】 ・従業員の雇用形態や労働環境について考える。	○			○労働者の権利を守るための取り組みについて理解している。
2次 6時間扱い	第１時　本時の課題：「市場経済において，価格はどのように決定されるのか」				
	・需要と供給，価格との関係についての説明を聞き，理解する。	●			○市場経済における価格の決定について理解している。
	第２時　本時の課題：「市場経済において，価格はどのような働きをするのか」				
	・需要と供給の変化を別々に作図する。 【企画書⑤】 ・製品やサービスの価格を設定する。		○		○市場経済において価格が果たしている役割を，効率に着目して考察し，表現している。

2次 6時間扱い	第３時　本時の課題：「身近な事例を基に，貨幣の役割や金融の働きについて理解する」				
	・貨幣の３つの役割と歴史について調べ，共有する。	○			○身近な事例を基に，貨幣の役割や金融の働きについて理解している。
	第４時　本時の課題：「銀行は私たちの生活でどのような役割を果たしているのか」				
	・現金・預金・・クレジットカード・電子マネーについて調べ，違いを説明する。 【企画書⑥】 ・起業資金の金額と，調達方法について考える。		○		○私たちの生活と銀行の関係について，銀行の役割に着目して，具体的な事例を基に多面的・多角的に考察し，表現している。
	第５時　本時の課題：「景気の変動に対してどのような取り組みがされているのか」				
	・景気変動のグラフから，好景気の局面と不景気の局面について読み取る。 【企画書⑦】 ・景気が変動した場合の対策について考える。	○			○景気について，どのような取り組みがなされているか理解している。
	第６時　本時の課題：「経済や金融のグローバル化は私生活にどのような影響を与えているのか」				
	・円の為替相場の推移や，経済がグローバル化になることの利点と課題を発表する。 【企画書⑧】 ・経済のグローバル化に対する方策を考える。				○経済や金融のグローバル化が生活にどのような影響を与えているかを考察する。
小単元のまとめ	第１時　小単元の学習課題：「**私たちの社会や生活を豊かにするために，企業にはどのような役割があるか**」				
	・【企画書⑨】 ・起業相談会を行い，企業の企画書の内容について，３つの視点からグループで話合う。 ・単元のまとめを書く		●		○社会や生活を豊かにするために企業が果たす役割について多面的・多角的に考え，表現している。
	第２時　本時の課題：「附属中ビジネスコンテスト開催」				
	・起業相談会で，相談した内容やコメントを踏まえて起業の企画書をレポートにまとめ，Google ドキュメントの形で提出する。 ・レポートを見合い，３つの視点で相互評価を行う。			●	○企業の生産活動や金融に関わる様々な事象から課題を見出し，対立と合意，効率と公正などの見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し，その勝手や結果を適切に表現する。

社会科　学習指導案

日　時：令和６年 11 月 23（土）
指導者：寺島　慶子
場　所：２年２組教室

1　単元名・題材名　　開国と幕府の終わり

2　単元・題材の目標

（1）　欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。

（2）近代化を成立させた欧米諸国のアジア進出が、日本の政治や社会に及ぼす影響について、複数の事象を関連付けて多角的・多面的に考察し、表現することができる。

（3）欧米諸国の接近とそれに伴う日本の社会の混乱や政治の変化について、そこで見られる課題を自分事として捉え、主体的に追求している。

3　単元・題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
欧米諸国のアジア進出に対する清の動きと、日本の開国と貿易の拡大による政治的･経済的･社会的な影響を理解しているとともに、諸資料からその変化や影響を読み取っている。	工業化の進展とそれに伴う政治や社会の変化に着目して、欧米諸国の東アジアへの進出が日本の政治や社会に与えた影響を考察し、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的･多角的に考察し、表現している。	欧米諸国における「近代化」の進展と東アジア諸国の動きについて、より良い社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

3　指導に当たって

（1）教材観

本単元は、中学校学習指導要領社会の歴史的分野「C(1)近代の日本と世界」に位置づけられている。小学校学習指導要領では第６学年の２(２)(ケ)において、黒船の来航として取り扱われている。中学校では、ヨーロッパ諸国でおきた市民革命や産業革命の結果、近代国家を成立した欧米諸国がアジアへ進出したことと、それによって日本を開国、倒幕へと動いていく時代の転換期を扱う単元である。この時代に日本が行っていた従来の制度や仕組み、鎖国の体制などが、欧米諸国の接近により、「開国か」「攘夷か」という重大な政治的決断を迫られることとなり、幕府や諸藩といった日本だけではなく、欧米諸国などそれぞれの立場から「世界の中の日本」という視野に立ち、多面的・多角的に考察する態度や能力を育むのに大変適した題材である。

また「ペリー」や「黒船」などは、小学校の学習でも取り扱っているため、小学校での学習についてさらに理解を深める点においても効果的な単元である。

（2）生徒観

本単元は小学校第６学年において、ペリーの来航や不平等条約の締結について学習をしてきている。しかし、歴史の大まかな流れやそれぞれの時代の特徴を押さえることが主となるため、その背景や経緯、結果などがわからず、用語の理解に留まっている生徒も多い。

課題に対して理解できるまで粘り強く課題に取り組んだり、男女を問わず活発に意見交流ができるなど、学習に対する意欲が全体的に高い。授業に関するアンケートを行った。

項　　目	肯定的な回答
1．課題について自分から考えようとしている。	97.0%
2．学びあい(ペア活動やグループ活動)で学習の理解が深まっている。	93.9%
3．積極的に自分の考えや意見を発言／発表できる。	48.5%

歴史の授業に関するアンケート結果

項　　目	肯定的な回答
1．歴史の授業が好きですか。	63.6%
2．歴史の学習が得意ですか。	33.3%
3．できごとや人物名など、歴史的用語を覚えることができる。	60.6%
4．資料からその変化や特徴を読み取ることができる。	75.8%
5．資料から読み取った内容を自分の言葉で説明できる。	42.4%
6．歴史的事象について、その背景や原因、結果について説明できる。	39.4%

この結果から、「歴史は好きだが得意ではない」と感じている生徒が比較的多く、その原因の１つとして、覚える用語の多さに加え、歴史的事象の背景や原因、結果に至るまでの流れがつかめていない生徒が多いことがわかる。

一方で歴史に興味関心が高く、疑問に思ったことや関心があることについて自分で調べ探求する生徒もいる。そのような生徒がペア活動やグループ活動を通して意見交流をすることで、他の生徒も学びを深めている場面がこれまでも多く見られた。

（３）指導観

指導にあたっては、江戸幕府滅亡の背景と流れを理解させることを重視したい。先述の通り、小学校の学習において特徴的な人物名やできごとは理解している。そこで、ペリー来航から日本の開国に至る経緯やその影響について、当時の世界の動きと関連付けて学習することでより理解が深まると考える。また、ペリーが来航し不平等条約を結んだことが幕府滅亡の原因と捉えている生徒も多く、開国や不平等条約締結による影響について複数の視点から考察することで、幕府滅亡の要因が１つではなく、様々な要素があったことに気づかせることで、歴史への関心をさらに高め、学習意欲の向上につなげたい。

５　指導と評価の計画

次	時	学習活動	評価の観点(評価方法)			評価基準
			知	思	態	
小単元の学習課題　「欧米諸国が来航するなかで、人々はどのような対応をしていったのだろう」【ねらい】ペリーが来航して開国をしてから幕府が倒れるまでの推移や背景、社会の変化に着目して考察し、当時の国際情勢と関連付けて理解する。						
1	1	第１時　本時の課題　幕府はなぜ外国船への対応を変えたのだろう				
		・本時の課題について，幕府の対外対策の変化を，アヘン戦争の結果や影響と関連付けて考察し，相互に説明する。		○		○幕府の対外対策の変化について，アヘン戦争がアジアに及ぼした影響と関連付けて説明している。

2		第２時　本時の課題　飢饉や財政の悪化に対して，諸藩や幕府はどんな改革をしたのだろう				
	1	・大塩平八郎の乱や天保の改革の失敗を通じて、幕府政治の衰退と雄藩の台頭について説明する。	○			○天保の改革の失敗により幕府衰退につながる反面、諸藩が商業重視の改革で成功していたことを理解している。
3		第３時　本時の課題　ペリーの来航によって、日本はどのように変化したのだろう				
	1	・ペリーの来航や開国が日本に与えた影響を踏まえて、資料を参考に不平等条約の内容と，欧米諸国と日本の関係について説明する。	○			○不平等条約の内容から日本とアメリカ(欧米諸国)との関係を理解している。
4		第４時　本時の課題　なにが江戸幕府を滅亡に向かわせたのだろう				
	1	・尊王攘夷運動の高まりと欧米諸国と対峙した薩長両藩の反応を踏まえて、幕府が倒れるまでの流れを説明する。	○			○攘夷から倒幕へ向かう諸藩の動きと、江戸幕府滅亡までの流れを，大政奉還を行った幕府の思惑を踏まえて理解している。
	2	・開国から大政奉還による江戸幕府の滅亡に至るまでの様々な出来事やその影響について、幕府滅亡へとつながる要因を多角的・多面的に考える。		○		○江戸幕府が滅亡した理由について、多面的・多角的に考察している。

6　本時の学習（第４次中２時）

（１）目標　　江戸幕府が滅亡した理由について、多面的・多角的に考察できる。

（２）準備・資料等　　ワークシート、iPad（ロイロノート、思考ツール）

（３）展開

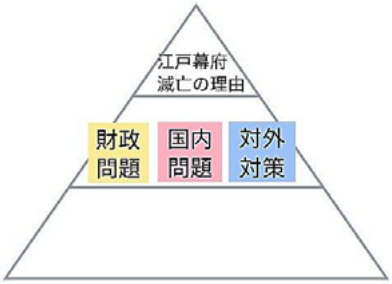
○学習内容　　・学習活動	・指導上の留意点など　【評価規準】（評価方法）	時間
（前時までの学習） ○開国から江戸幕府滅亡までの流れを確認する。 （個人で） ○江戸幕府が滅亡した理由を、３つの視点から考える。 ・幕府滅亡の理由として考えられるものを「（幕府の）財政問題」、「国内問題」、「対外政策」の３つの視点ごとに分けてふせんに記入する。	・幕府滅亡の理由を「財政問題」→ 黄色、「国内問題」→ 赤色、「対外政策」→ 青色の色別に記入することで、どの視点かをわかりやすくする。 ・これまでの学習に関わる資料を掲示し、幕府滅亡の理由を考えるヒントとする。	

（個人で） ○江戸幕府が滅亡した理由を、３つの視点から考える。 ・幕府滅亡の理由として考えられるものを「（幕府の）財政問題」、「国内問題」、「対外政策」の３つの視点ごとに分けてふせんに記入する。	・幕府滅亡の理由を「財政問題」→ 黄色、「国内問題」→ 赤色、「対外政策」→ 青色の色別に記入することで、どの視点かをわかりやすくする。 ・これまでの学習に関わる資料を掲示し、幕府滅亡の理由を考えるヒントとする。	５
学習課題　　江戸幕府滅亡の理由はなんだったのだろう？		
（グループで） ○幕府滅亡の理由について、関連付けたり、影響の大小に分類するなどして整理する。 ・ピラミッドチャートにふせんを貼って、幕府滅亡の理由を整理する。	・ピラミッドチャートにふせんを貼る際に、以下の点に留意させる。 ①　３つの視点(色)別に整理する。 ②　同じふせんは枚数がわかるように重ねて貼る。 ③　関連するものは近くにまとめる。	１５
（共有する） ○ピラミッドチャートを基に、理由の関連や影響について意見交流する。	・各グループで作成したピラミッドチャートをロイロノートで共有し、その根拠を相互に伝え合うことで多様な理由や捉え方あることに気付かせる。 ・前後半に分けて、全員が他のグループと意見交流できるようにする。	１８
○まとめ ・江戸幕府滅亡について、「財政問題」「国内問題」「対外政策」の３つの視点から、その影響の割合をグラフで示す。	・グラフに表すことで３つの視点のうち、幕府滅亡により影響を与えたものを捉えられるようにする。 ３つの視点について、江戸幕府滅亡に影響を与えた割合をグラフで示し、自分の考えを表現することができる。　【思考・判断・表現】	１０
・ロイロノートで提出したグラフを共有する		２

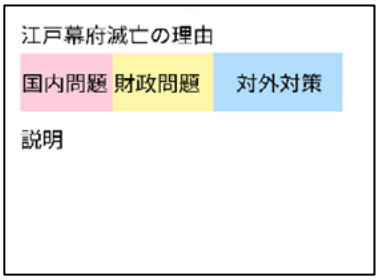
７　板書計画、ワークシートの記述例など

＜何が江戸幕府を滅亡に向かわせたのだろう＞

～３つの視点～
・「財政問題」→黄色
・「国内問題」→赤色
・「対外政策」→青色



スクリーン

ロイロノートで各グループの

ピラミッドチャートを写す